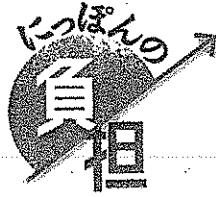


## 住民が担う介護 悩む現場

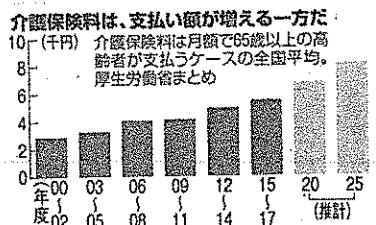
8/1 韶山



全蜀王集

元看護師の櫻尾光子さん  
(64)は手足痙攣を感じた。最も  
高齢のシタエさん(89)は片  
足立ちながら伸びて9秒で  
きたし、レイコさん(76)  
は、2分間の足踏み運動で  
8回も立った。

鳥取県日南町湯瀬地区  
蟬しぐれの山の向こうは広  
島県だ。この日、集会所に  
9人が集まつた。毎週火曜  
日の午前中に体操したり、  
おしゃべりしたりする。体  
力測定は3ヶ月用ぶり。櫻尾  
さんはボランティアの地区  
代表だ。要介護度が低い年  
「要支援」のお年寄り2人  
も参加する。



大阪府茨木市にある高齢者の交流施設「街かどダイハウス」山手台なつ星】

「時給」は300円

田舎町では、33の血栓会  
のいがれで事業の受け皿と  
なる住民の会ができた。主  
力は7代目。町の担当者た  
ちは不安もある。「今は調査  
だが負担は大きくなる。い  
つまでも継続したいね」

価は1時間300円。利用料(1回300円)収入や、市から年間約300万円の補助金があるが、「利用者のためを使う」ことが第一」と、対価を抑えた。だ

に本へ、本へ、アキラを送  
なつてゐる。要支援者の  
事を支援する住民は特給

「自立運営」へ  
6年かけ準備  
田宏一さんは「要支  
も入れば、もっと払うべ  
かもしけない」。

修善とその事

三

ムカサ



交流施設でパッチワークを楽しむ参加者とボランティアたち  
=太阪府茨木市の「街かどティハウス 山手台ななつ星」

地域や個人にしわ寄せ

東京都世田谷区で空き家を利用してした「シェア奥沢」。利用者の多くが高齢者で、年寄りが集まる。音楽会などを開いてきたが、5月から「要素支援」の5人も加わった。近所の連さんと一緒に体操や折り紙を楽しむ。

満たして事業の受け皿に  
一過性「開拓」などの名で  
され区から補助金が出る  
ただ、区内で高齢者の  
交流の場を提供する団体  
70-1あるが、この中で  
業の受け皿になったのは  
つだけ。多くは様子見た  
あるボランティア団体の  
營者は「担い手は数人の  
齢者だけ。これ以上の負  
はかけられない」。  
区の担当者は「地域資源  
がたくさんあるから」とい  
て、区の都合に合わせて  
らはない」。善意や趣味  
らはじめられた市民活動に  
入る

「かもつ源」は、行政の「一筋を押しておき、には時間がかかる」とみた。国は3月、金額を自ら担ぎて賄う「保険外サス」のガイドブックをつた。家事援助や介護高齢者に対する高齢者虐待の問題も、行政の「一筋を押しておき、には時間がかかる」とみた。国は3月、金額を自ら担ぎて賄う「保険外サス」のガイドブックをつた。家事援助や介護高齢者虐待の問題も、

自分たちで取り組む試験を運営する。して町会本部に広げたい。いう。ただ、ボランティアの一部には不安もある。慎重に進める考えだ。

高齢者を地域で支える試行錯誤が各地で始まっている。元厚生労働省老健局長で医療介護福祉政策フォーラム理事長の中田さんはこの通り。「からの社会保障は「高・高参加」が必要だ」

## 「善意」が頼り 理念逸脱

する」と話す笠置ボランティアもいた。善意を制度化するようなことは可能なのか。国や自治体には厳密な見極めが必要だ。

「い」と語る。  
あるケアマネジャーは介護の将来をこう語る。「これから頼るのは自分のお金。それしかなし」。介護は「互助」「自助」が強調され、地域や個人の負担が増えしていく。

「保険外サービス」で、月額500円の料金を支払ってもらう。かかるかるとなる。月、金額を自己負担で、保険外サービス。旅費援助や介護旅館の手足にまじがあり、要介護1だ。介護保険を使つた。リハビリを利用しながら週に1回、自費でリハビリ施設にも通う。費用は月6万円ほど。「お金はかかるつむ」といふ。今こじらぬくなりた

田せ  
田谷区の秋田清次さん  
が、「自費サービスの利用  
は当たり前になりつつあ  
る」(ダスキン担当者)。  
世田谷区の秋田清次さん  
が必要だ」  
云ふ理事長の中村秀  
吉と書かれてある。これ  
は各地で始まつて  
各地で始まつて  
市町にサービスの把握や情報  
発信を呼びかけた。「自  
助」も促されている。  
清掃用品のレンタルなど  
を手がけるダスキンは、介  
護保険制度が始まつた20  
00年に訪問介護事業を開  
始。都内の利用料金は最低  
2時間7千円で、利用者の  
全額自己負担だ。介護保険  
サービスに比べて割高だ  
が、「自費サービスの利用  
は当たり前になりつつあ  
る」(ダスキン担当者)。

ご意見はメール (keizai@asahi.com)  
にお寄せください。